



輝け！北っ子

令和元年5月16日発行

5月号

発行責任者 紺野 宗作

北っ子見守り隊が新たなスタート！

子どもの安全・安心を守っていくことは、学校としても大きな課題の1つです。特に、登下校の交通事故や声かけ事案など、保護者や教師の目が届かないところで、どんな対策をしていくかは、悩みがつきないところです。「北っ子見守り隊」については、過去の記録を見ますと保護者やその家族等が中心となり平成18年頃から活動をしていました。しかし、最近は活動する人が減少し、実際は数名という状態となっていました。そこで、昨年、登下校に限らず、自宅周辺で子ども達とあいさつを交わす「あいさつ見守り隊」を募集しましたところ、130名を超える地域の皆さんにご登録いただきました。本当に有り難いことです。

そして、このたび、この「北っ子見守り隊」が永続的に継続されることを願い、また、「地域の子どもは、地域で守る」の理念のもと、地域の皆さんと一緒に子どもを見守るという新たな「北っ子見守り隊」を結成し、設立総会を行いました。隊長は、郭内町内会長の手塚俊勝さんです。これからも、学校と地域が手を携えながら、安心して子どもが学校に通える地区を目指していきたいと思います。



5/9の防犯教室には、たくさん見守り隊の方にも参加いただきました。地域でお会いしたときは、きちんとあいさつをしましょう。

警察の方から、車で近づき声をかけられ時の対処の仕方について教えていただきました。「知らない人の車には絶対乗らない」



ランドセルをつかみ引き込まれそうになったときは、ランドセルを捨て逃げる。近くの大人に助けを求めましょう。



防犯教室が終わり、見守り隊の設立総会を行いました。子どもの安心・安全を守れる地域にしていくことを確認し合いました。

子育ては、「北風と太陽」の太陽のように・・・

「いつも大声でガミガミと言ってしまうんです。これではいけないと思っているのですが・・・」と以前、保護者からこのような相談を受けたことありました。このようなとき、いつも私は、イソップ童話の「北風と太陽」の話をします。

冷たい存在の象徴である北風と、温かい存在の象徴である太陽が、歩いている男のコートをどちらが先に脱がせるか？という勝負をする話です。男に直接風を吹きつけ、無理やりコートをはがそうとする北風に対し、男を温める太陽。もちろん、人は強い風が吹くと、手で押さえながら余計に羽織ろうとします。脱ぐどころではありません。逆に太陽は、男を温めてカンカン照りにします。すると人は、自分からコートを脱ぎだしました。そのようにした太陽が勝ったわけです。

子どもに自分の主張を無理やり押し付けて思い通りに動かそうとしても、なかなか聞いてくれないことが多いです。仮に、言うことを聞いたとしても心の中では反発したりするものです。強い風にあたれば当たるほど子どもは抵抗する気持ちが働きます。子どもが動くとき。それは自分のしたことには納得がいったときです。納得がいくと自分を素直に振り返ることができます。

例えば、子どもが、着替えはのんびりだし、お風呂もなかなかすぐに入ろうとしないとき。そんなとき、「何やっているの。早く着替えなさい」とか、「ぐずぐずしないで、早くお風呂に入りなさい」とか、ついつい命令的な言い方をしてしまうことがあるかと思いますが、これでは、力づくで旅人のコートを脱がせようとする北風と一緒に。そうではなく、「着替えるまで待ってるから早く着替えて」「お風呂に入ろうとするまで待ってるよ」と、子どもが自分でやり始めるまで、見守ることが子育てには大切だと思います。太陽がぼかぼかと暖かく包み込むことで旅人のコートを脱がせるように、子どもが自分のペースでやり始めるまで、温かい気持ちで見守ることが大切です。子どもは、自分の力でできたときに自信を持って何でも前向きにやろうという気持ちになるからです。じっくり待つ時間や余裕がないということも多いでしょう。しかし、いつでも待つという気持ちを、常に意識しておくべきことだと思います。子育ては、イソップ物語の「北風と太陽」の太陽になることが大切だと思っています。

